

H19.5.25

高岡市総合計画

基本構想

(案)

平成19年5月

基本構想 目次

序 章

第1節 総合計画の目的と構成	1
第2節 基本構想策定の趣旨	
1 本市の位置と地勢	2
2 まちづくりの歩み	3
3 現在から未来に向けて	5
第3節 時代の潮流と高岡市	6
第4節 高岡市の重点課題	9
第5節 人口の見通し	13
第6節 土地利用の考え方	15
第1章 都市の将来像	17
第2章 まちづくりの目標	18
第3章 15年後の高岡の姿	19
第4章 計画の大綱	28
第5章 まちづくりの目標達成のための基本方針	
1 飛越能86万人のふれあいと交流のまち	30
2 水・緑につつまれ安心して暮らせる やすらぎのまち	34
3 心豊かな人をはぐくみ 万葉と前田家ゆかりの 歴史と文化をたのしむまち	40
4 ものづくりの技と情熱が作り出す にぎわいのまち	45
5 みんなで考え みんなでつくる みんなのまち	50

序章

第1節

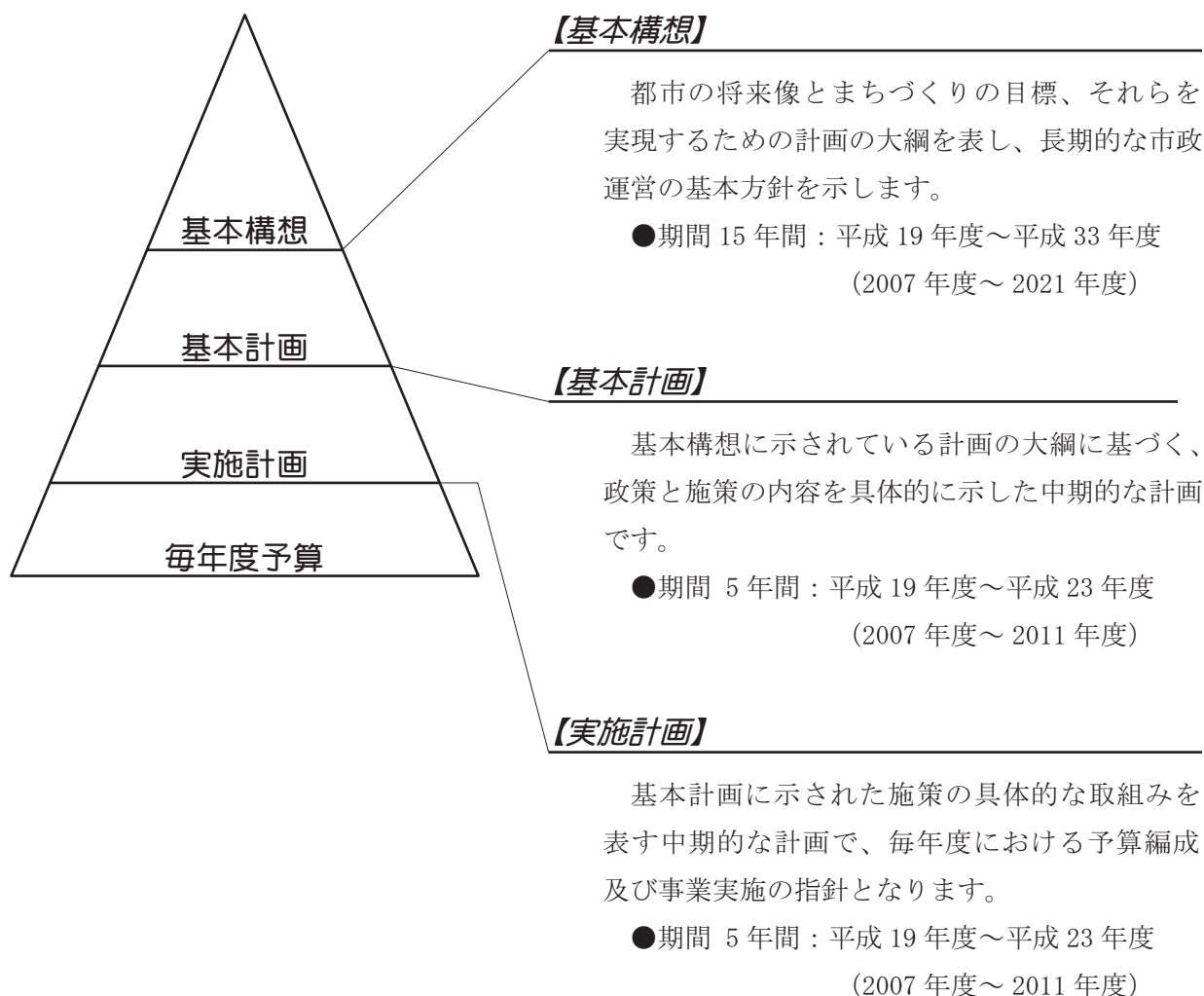
総合計画の目的と構成

旧高岡市と福岡町の合併を機に、新しい高岡市の総合計画を策定します。

今回の総合計画では、高岡市の目指すべき将来像を掲げ、行政をはじめ様々な主体が参画・活動するための、まちづくりの目標や基本方針を明らかにしています。

この総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3つからなっています。それぞれの内容、役割、計画期間は次のとおりです。

総合計画のイメージ



第2節 基本構想策定の趣旨

1 本市の位置と地勢

高岡市は、富山県北西部に位置し、北は氷見市、南は砺波市、東は射水市、北西は石川県宝達志水町・津幡町、南西は小矢部市に接しています。

市域は、東西約 24.5 キロメートル、南北約 19.2 キロメートル、面積は 209.38 平方キロメートルで、富山県全体の面積の約 5 パーセントを占めています。

市内の西側は山間地域で二上山とこれに連なる西山丘陵があり、東側は庄川・小矢部川によって形成された平野部は扇状地であり、良質の地下水が豊富です。また北東側は富山湾に面するなど、深緑と清らかな水に包まれ、四季折々に変化する豊かな自然に恵まれています。

気候は四季の変化が割合にはっきりしており、冬期には北西の強い季節風が吹き北アルプスの影響を受けて降雪量が多いものの、年間平均気温は 14 度前後と比較的温暖的な気候となっています。

2 まちづくりの歩み

(1) 万葉のふるさと(古代)

高岡市の歴史は古く、越中文化の発祥の地といわれ、これを物語るかのように古墳の数は県内随一で、小矢部川流域の西山丘陵から二上山の麓を経て伏木・太田に至るまで数多くの古墳が分布しています。

天平 18 年(746)には、万葉集の代表的歌人である大伴家持が越中の国守として国府(現在の高岡市伏木)に赴任し、在任 5 年の間に風光明媚な二上山や雨晴海岸などを愛でて詠んだ 220 首余りの秀歌を万葉集に残し、今日に万葉の心を伝えています。

(2) 加賀藩のまちづくり(近世)

中世末期には、木舟城、守山城などの城を中心として城下町が形成されました。

加賀藩の治世に入り、第 2 代藩主の前田利長は、異母弟の利常に家督を譲り、当時関野と呼ばれていた高岡の地に城を築きました。こうして城下町としての高岡が開かれ、まちの基礎が形づくられたのが慶長 14 年(1609)。「高岡」の地名は、詩経の一節「鳳凰鳴けり、かの高き岡に(鳳凰鳴矣 于彼高岡)」から引用して、この地が繁栄することを願って利長が名付けたと伝えられています。

高岡城は、利長の死と一国一城令によって築城わずか 5 年で廃城となりましたが、利長を敬慕する利常の努力によって、武家のまちから商工業を中心とする町人のまちとして生まれ変わりました。

その精神は、銅器・漆器に代表される伝統産業や近代産業に脈々と受け継がれ、「ものづくりのまち」高岡を支える柱となっています。

(3) 市制施行(近現代)

明治期になっても、高岡は商工業都市としてさらなる発展を続け、その隆盛ぶりは明治 22 年(1889)の市制・町村制の施行に伴い、全国で最初の 31 市のひとつとなる原動力となりました。

その後、昭和 17 年(1942)に良港を有する伏木町を合併、戦後には周辺村部を編入し、昭和 41 年には戸出、中田両町を合併しました。さらに平成の大合併では旧高岡市と福岡町が合併を果たし、現在の市域となっています。

都市基盤の整備は、県内の他都市に先立って行われた下水道事業をはじめ、昭和 40 年代にかけて様々な都市施設の整備が進められました。その後も区画整理、市街地再開発、おとぎの森公園等の都市公園整備、市民病院の改築、万葉線の第 3 セクター^{*1}化、ふくおか総合文化センター(Uホール)の建設、福岡駅舎の改築など都市機能を充実させてきました。

現在、高岡市は 18 万人の人口を有し、県西部の中核的都市としての役割を担うとともに、日本海側有数の産業都市として発展を続けています。

^{*1} 国や地方公共団体と民間の共同出資による事業体。

3 現在から未来に向って - 「鳳凰が舞い降りるまち」へ

これからの 15 年は、東海北陸自動車道の全線開通、平成 26 年度までには北陸新幹線の金沢までの開業など、高岡市の骨格となる社会資本の整備が進みます。また、平成 21 年には利長の高岡開町から 400 年の節目を迎えるなど、新たな時代の扉が開かれようとしています。

一方、私たち高岡市民は、先人がつくりあげ洗練させてきた銅器・漆器・菅笠など伝統産業に息づく「ものづくりの技」を不断の努力と情熱をもって承継しつつ、進取の気性をいかに発揮して、アルミ・化学など新たな産業をこの地に根付かせてきました。

私たちはまた、高岡の先人たちに深い敬意をはらい、国宝瑞龍寺や重要文化財勝興寺などの社寺、伝統的な町並み、伝統芸能、祭りなどの歴史資産を大切に受け継ぐとともに、家持が愛してやまなかった山、海、川などの豊かな自然も大切に守り続けてきました。

これから私たちは、高速交通網の整備を契機に東西、南北にわたって様々な人、ものの交流をつくり出し、飛騨、越中、能登 86 万人の人々の交流の拠点として高岡市を発展させ飛躍させていくとともに、周辺各都市が共に繁栄を享受できるよう、域内でのリーダーシップを発揮していかなければなりません。

そのため、高岡市は産業、生活面での都市機能を充実させ、未来に向けての発展を図りながら、伝統や自然、人を思いやる心を大切に守り育てていくことで、良好な環境、やさしい福祉、良質な教育を含め、調和のとれたまちづくりを進めていく必要があります。

これからの 15 年はまさに大きなチャンスの時です。利長が高岡の地名に込めた弥栄の願いをいま一度思い起こし、「この地に再び鳳凰を」を合言葉に、「誰もが行きたいまち、住みたいまち、みんなで作るまち 高岡」の実現に向け、様々な主体が協働してまちづくりを進めていくため、この基本構想を策定します。

第3節 時代の潮流と高岡市

1 人口の減少と少子高齢化の進行

日本の人口は平成 16 年（2004）から減少局面に入ったとされ、平成 17 年の合計特殊出生率が 1.26 と過去最低を記録するなど、少子化の進行とともに、今後ますます人口減少のスピードが速くなると予測されています。（厚生労働省「人口動態統計」）

また、日本の高齢化は、世界に類を見ない速度で進行し、平成 22 年に老年人口の割合が 21%を超える「超高齢社会」へ移行することが予想されます。

高岡市においては、昭和 60 年代をピークに人口は減少しており、少子化とともに、平成 17 年の老年人口の割合は 23%を超え、今後とも人口減少と高齢化が進むと予想されます。

少子高齢化による人口減少は、社会全体の活力低下とともに、経済活動の縮小を招き、年金・福祉・医療などの社会保障制度の維持が困難となるほか、地域のコミュニティ機能低下によって歴史・文化の伝承、防犯・防災などの面で多くの課題が生じることも懸念されます。

このため、子どもを産み育てやすい環境づくりや、高齢者の社会活動への参加促進など、少子高齢化に対応した新しい社会経済システムの構築が求められています。

2 情報通信技術の進展

「IT（情報技術）革命」と呼ばれた急速な情報化の進展は、産業・医療・福祉をはじめ、社会生活に大きな影響を及ぼしています。

インターネット^{*1}の人口普及率が6割を超え、ICT^{*2}の利用は市民生活にとって不可欠なものとなってきており、u-Japan 構想^{*3}に基づき、ユビキタスネット社会の実現に向けた取組みが始まっています。

社会経済のあらゆる局面で知識・技術の集積と進歩が促されることにより、大都市圏への一極集中を加速させることが懸念されます。一方、ICTの活用により、地方においても容易に情報の受発信ができるようになることから、そのメリットを最大限に活かし、新産業の創出や誘致のほか、高度な知識や技術に対応できる人材育成などが求められています。

また、市民ニーズの多様化やデジタル・ディバイド（情報格差）の拡大、子どもや高齢者をも巻き込んだネット犯罪の増加など解決すべき課題も多く、それらに的確に対処していくことが必要とされています。

^{*1} 地球規模のコンピューター-ネットワーク。通信回線を介して、世界各地の個人や組織のコンピューターがつながっている。

^{*2} 情報や通信に関する技術の総称。Information and Communication Technology の略。

^{*3} 総務省が 2004 年 5 月に打ち出したもので、ユビキタスネット社会の実現を目指すための構想。

3 グローバル化、ボーダレス化

急速に進行する社会経済のグローバル化^{*4}は、人、もの、情報などの自由な交流によるボーダレス化^{*5}を促進し、人々の活動領域や国家の政策に様々な影響を与えています。

特に、近年のアジア諸国における急激な経済成長は、世界の目をアジアにひきつけるとともに、わが国を含めた東アジアを一体として捉えるという認識を持たせることとなっています。

高岡市においては、中国、韓国、ロシアといった環日本海諸国との人やものの交流によって、国際的な経済・文化交流活動がますます盛んになることが考えられます。

一方では、急激な情報や異文化の流入は、受入れ側の意識や環境の変化をもたらすことにもなることから、まずは身近な観点から、国際化への意識付けや社会基盤の整備が求められています。

4 地球規模での環境問題

大量生産・大量消費型社会は、大気汚染や水質汚濁、地球規模に及ぶ温暖化や酸性雨の増加、オゾン層の破壊など多くの環境問題を発生させ、明日の私たちの生活、そして生命までもが脅かされつつあります。

これらの環境問題は地球全体に及ぶことから、全世界規模での取組みが必要とされるのはもちろん、私たちの身近なところからの小さな積み重ねが必要となります。

人と自然との共生が図られるような環境づくりを目指し、高岡市においても環境問題に積極的に取り組む必要があります。また、広域的な視点からの対策や、資源の有効利用を図る循環型社会システムの構築が求められています。

5 防災・防犯など安全な暮らしへのニーズの拡大

地震や豪雨などの自然災害は、都市化の進展に伴い、大規模化する傾向にあります。高岡市においても大小河川、急傾斜地が多く、台風や豪雨などによる大規模な災害が危惧されます。

犯罪については、情報・国際化の進展によって多様化しています。また、子どもたちをめぐる社会環境が大きく変化し、犯罪に巻き込まれるケースが増えています。

私たちの身の回りには、常に多くのリスクが潜んでいることから、市民が安全で快適な日常生活を送られるよう、行政による危機管理体制の整備とあわせ、防犯パトロールなど地域が一体となった防災・防犯活動への取組みが求められています。

^{*4} 全地球的、全世界的規模で、政治・経済・文化などが国境を越えて拡大すること。

^{*5} 従来は区別や差別のあった複数のものの中で、交流や融合化が起こること。

6 市民の価値観の多様化とまちづくりへの市民参画意識の高まり

社会の成熟化は人々の価値観に大きな影響を及ぼし、個々の生きがいの対象や求める行政サービスを多様化させています。また、個人の多様な生き方の追求は、住民関係の希薄化などコミュニティ機能を低下させる要因ともなっています。

一方、個人が自己実現の機会を求める中で、NPO^{*6}やボランティア団体などが、その活動を通じて新たな公共サービスの担い手として期待されています。

高岡市では自治会等のコミュニティ活動をはじめ、市民や企業による地域活動が活発に行われています。こうした特性をさらに活かし、市民と行政がそれぞれの役割を認識しながら協働してまちづくりを進めるなど、多様な市民ニーズに対応した行政サービスを提供することが求められています。

7 男女平等・共同参画社会の実現

固定的な性別役割分担意識やこれを反映した社会制度・慣行などが、今なお残っており、職場や家庭においても真の男女平等の達成には、まだ改善すべき課題が残されています。将来にわたり豊かで活力ある社会を築くためには、男女がそれぞれの個性と能力を充分発揮し、共に社会に参画していくことが必要となっています。

市民、行政、事業者等が一体となって、男女平等・共同参画社会^{*7}の形成に向けての取組みを総合的、計画的に推進していくことが求められています。

8 地方分権の進展と行政の広域化

地方分権^{*8}社会への移行が進む中、市町村は自己決定と自己責任の原則のもと、今まで以上に自立性を高めていくよう、行財政改革などを通じて新たな行政システムを構築する必要があります。地方分権の受け皿として、市民と行政の協働によって自治能力を向上していくことが求められています。

また、市民の生活行動の広域化や多様化、少子高齢化、地方を取り巻く厳しい財政環境のもと、広域的な連携を行うことによって、より効率的で効果的な事業を推進することが必要となっています。

広域観光ネットワークの構築や、ごみ処理施設・幹線道路網の整備をはじめ、介護保険・水道・消防などの共同事業の検討、公共交通の活性化など、広域行政をさらに推進し、自治体間の連携を強化していくことが求められています。

^{*6} 「Nonprofit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略で、広義では非営利団体のこと。狭義では、非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。最狭義では、特定非営利活動促進法（1998年3月成立）により法人格を得た団体（NPO法人）のことを指す。

^{*7} 男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会。

^{*8} 権力を中央統治機関に集中させずに、地方の自治団体に広く分散させること。

第4節 高岡市の重点課題

交流の時代のまちづくり

1 まちづくりのキーワードは「交流」の推進

高速交通網や情報通信システムなどの進展は、人、もの、情報、サービス等の相互交流を活発化させ、地域を新たな時代へと移行させる推進力となっています。

人と人、まちとまちをつなぐ体系が形づくられる新たな時代を迎える中、地方分権社会への移行とも相まって、各自治体には、個性あふれるまちづくりとともに、“交流”をキーワードとした新たな視点によるまちづくりが求められます。

地域間交流の促進が、個々のまちの活力・魅力を高め、それが地域外の人々をひきつけ、さらなる交流人口の拡大へとつながっていくことが大切です。

高岡のこれからの15年は、平成20年3月までの東海北陸自動車道の全線開通、平成26年度までの北陸新幹線の金沢までの開業などにより、人、もの、情報の交流を飛躍的に拡大することができるチャンスが訪れます。

一方、高速交通網の進展による大都市圏との時間短縮は、企業の統廃合や消費人口の流失などのストロー現象や地域間競争を激化させる恐れもあることから、私たちは訪れたチャンスを高岡の活性化にしっかりと結びつけていくため、たゆまぬ努力をしていく必要があります。

水・緑が織りなす豊かな自然、万葉と前田家ゆかりの歴史文化、ものづくりの技など高岡の持つ魅力に磨きをかけ、新たな人・技術・企業を呼び込み、中心市街地や地場産業・伝統産業を活性化させ、市民の生活を豊かにしていくことにより、ふるさとを誇りに思い、愛する人が増え、次代を担う人づくりにつなげていく。

そのことがさらなる交流の拡大を促進し、まちづくり・人づくりの好循環を生み出し、高岡を大きく飛躍させていくものと考えます。

私たち高岡市民が目指す“行きたいまち”“住みたいまち”“みんなで作るまち”とは、交流から生み出され、交流から築きあげられる新たなまちの形です。

2 富山県の中の高岡市～県西部の中核的都市～

高岡市は、豊富な地場産業を持つ産業のまち、歴史と文化あふれる観光のまち、県西部における中核的都市として重要な役割を担っています。

藩政期から明治・大正にかけては、砺波・射水地方に広がる穀倉地帯から収穫される米をはじめ、木材、薪、炭などの産業・生活物資が高岡に集められ各地に供給されるなど、物資の集散地として中心的な役割を果たしてきました。

その後も、県西部における商業・サービスの供給地としての役割を担うなど、高岡は県西部地域との深いつながりの中で発展してきました。

また、北陸本線をはじめ氷見線、城端線、万葉線などにより、放射線状に県西部の全市をつなぐ交通網の要衝となっています。さらには、産業集積地として、多くの高等教育機関を有するまちとして、県西部の経済、文化、情報の多彩な交流の拠点となっています。

これから、大都市圏とを結ぶ高速交通網の整備が進む中、今後も県西部での中核的役割を果たすとともに、大都市圏との交流の窓口として県西部地域の持つ個性あふれる様々な魅力を紹介し、つなげるため、県西部の各市との結束をより一層強め、新しい視点で県西部地域全体のさらなる発展を目指します。

さらに、富山市をはじめ県東部地域、富山県とも連携を図り、県域全体の発展と交流人口の拡大につなげます。

3 日本の中の高岡市～南北軸と東西軸の結節点(十字路)としての交流都市～

高岡の魅力を全国に発信し交流人口の拡大へとつなげていくには、より大きな範囲での「交流」の枠組みを通して地域の魅力を発信していくことが必要となります。

高岡市は従来、“富山県”や“北陸”という位置付けの中でとらえられてきました。高速交通体系が大きく変化していく中、それに加えて新たな枠組みを築きあげていくことが必要となります。

能登・富山県西部・飛驒の三地域にまたがる広大な“飛越能^{*1}”圏域は、南北軸としての東海北陸自動車道や能越自動車道などの整備・促進を契機に一体化の機運が醸成され、観光・経済面を中心とした新たな交流圏として期待されています。

また、“富山県東部地域・高岡地域・金沢など”加賀地域”圏域は、東西軸としての北陸自動車道に加え、新たに北陸新幹線で結ばれることから、今後さらに交流を発展させていかなければなりません。

高岡市は、これらの南北軸と東西軸が交差する高速交通網の十字路を有する地域の中核的都市として、交流を通じた圏域内の活性化に加え、各地域に点在する様々な資源を結びつけることにより、各々のまちの魅力を何倍にも引き出す役割を担うことが求められます。

高岡市がその役割を果たすことで、これらの地域は従来からの“富山県”や“北陸”とは異なった新たな圏域として認識され、“飛越能”も人々をひきつける魅力的なキーワードとなってきます。圏域の活性化はまた、交流人口があふれる高岡市の未来の姿へと結びつけられます。

*1 県西部(高岡市、射水市、氷見市、小矢部市、砺波市、南砺市)、飛驒地区(高山市、飛驒市、下呂市、白川村)、能登地区(七尾市、羽咋市、輪島市、珠洲市、宝達志水町、中能登町、志賀町、穴水町、能登町)

4 世界の中の高岡市～港を活かした環日本海への玄関都市～

急速に進展する国際化は、日本の一都市である高岡市においても大きな影響を与え、将来を見据えたまちづくりに関わってきています。

今、時代はアジアを中心とした方向へと向かいつつあります。特に急速な経済成長を続ける中国をはじめとする東アジア諸国と日本の相互依存関係はますます深まっていることから、ロシアを含めた環日本海諸国^{*1}との交流が大変重要となってきました。

こうした時代に、アジアをはじめとする世界各国からの観光客が、富山・能登・小松の空港や中部国際空港から入国し、高速交通網を使って能登、越中、飛騨、加賀などの多彩な自然・文化に触れながら、出国するというのも十分予想されます。

また、地理的に日本海側の真ん中に位置し、日本海側有数の良港である伏木富山港を擁する高岡市は、環日本海交流における重要な役割を果たすことが期待されています。

日本海の玄関口となる伏木富山港と中京圏が高速交通網を通じて結ばれることにより、これまで以上に人や様々な物資が伏木富山港を出入りすることとなり、高岡市の位置付けはさらに重要なものになります。

アジアの時代を見据えた環日本海交流の促進は、国際交流都市をイメージさせるまちへと高岡市を飛躍させることとなるでしょう。“富山県西部”“飛越能”“加賀”“越の国^{*2}”そして“環日本海”へと広がる交流圏域は、一地方都市である高岡を世界の中の交流都市へと変貌させるのです。

^{*1} 日本海側のロシア、中国、韓国、北朝鮮そして日本を含めた国々のこと。

^{*2} 越前、越中、越後に加賀、能登を加えた地域。加賀、能登は古くは越前に含まれていた。現在の地域で言うと、福井、石川、富山、新潟の4県を指す。

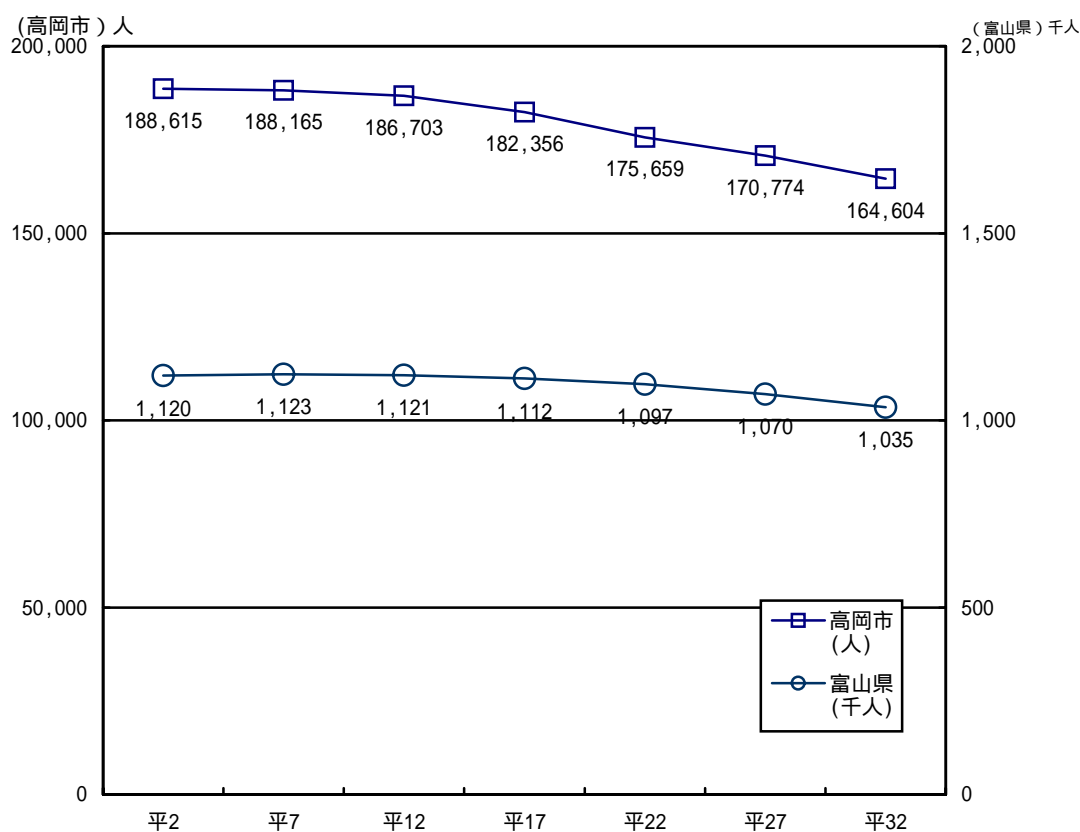
第5節 人口の見通し

本市の人口は、平成17年10月1日現在、18万2,356人で減少傾向が続いています。今後、少子高齢化の進展や、転出超過の状況で推計すれば、15年後の本市の人口は、16万5,000人を割り込むと予測されます。

新たな総合計画のもと、交流人口の拡大に努めるとともに、安心して子どもを産み育てることができる環境の整備や、やすらぎある生活環境の整備、魅力ある雇用の場と就業機会の拡大など、様々な施策に積極的に取り組むことによって、著しい人口の減少に歯止めをかけ、15年後の目標人口を17万人とします。

15年後の目標人口 17万人

高岡市の人口推移（推計）

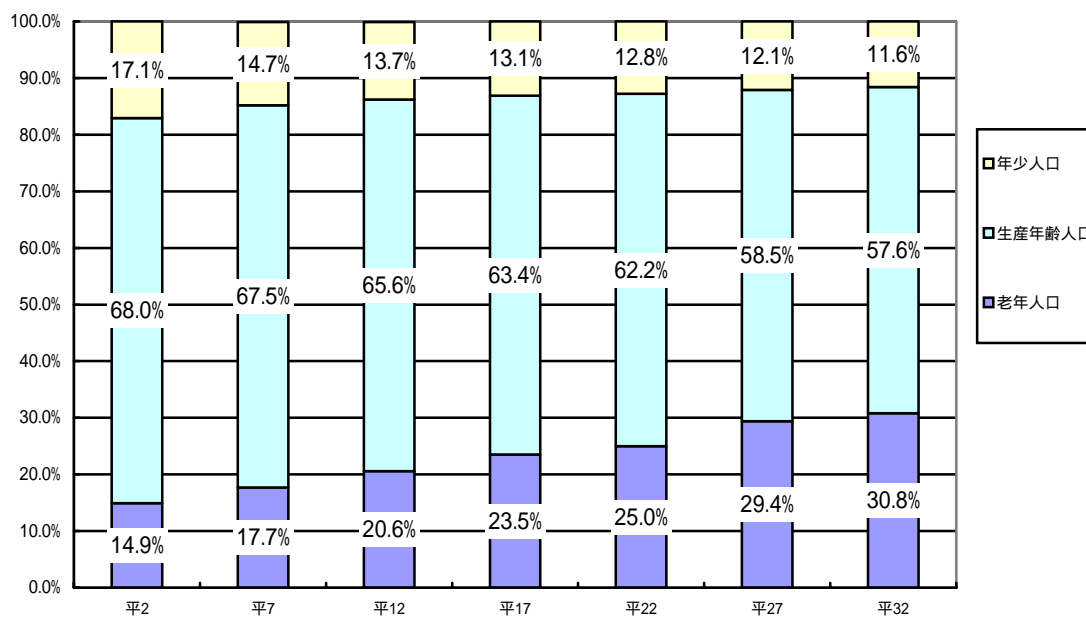


* 基準 高岡市 - 平成17年10月1日 (H17「富山県の人口-市町村別年齢別男女別人口」)。

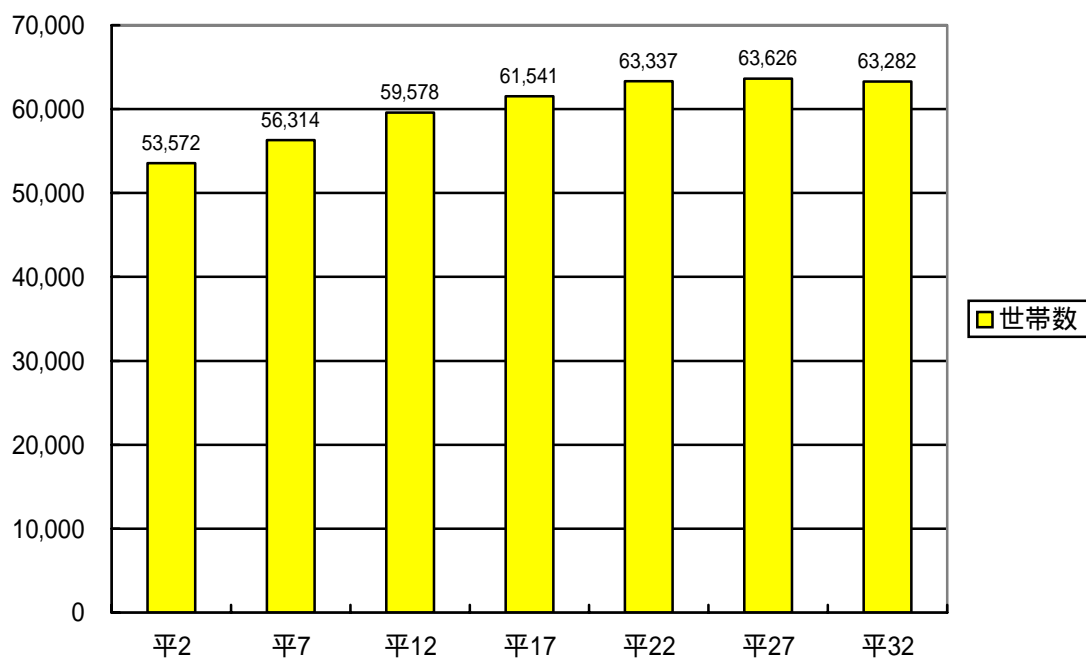
* 出生率 都道府県別将来推計人口 (社会保障・人口問題研究所平成14年3月推計)

* 富山県 - H17 国勢調査人口、都道府県別将来推計人口 (社会保障・人口問題研究所平成14年3月推計)

年齢3区分別人口の推移（推計）



世帯数の推移（推計）



第6節 土地利用の考え方

土地利用については、豊かな水と緑、歴史や文化に恵まれた地域の特性を活かしながら、市民生活の利便性・安全性・快適性を高め、健康で文化的な生活環境の確保と均衡ある発展を図るため、都市的土地利用と農業的土地利用、自然的土地利用の調和を図りながら総合的かつ計画的に行います。

まちなか再生の取組みにより、中心市街地の土地の高度利用を図るとともに、市街化区域内の低・未利用地や農地などの有効活用を促進します。

農業者の生産基盤を支える生産性の高い地域においては、優良農用地の確保を図ります。また、幹線道路沿いや市街地隣接地域などにおいては、開発と保全の調和のとれた土地利用を図ります。

第1章 都市の将来像

『水・みどり・人 光り輝く躍動のまち 高岡』

わたしたちのまち高岡は、平成17年11月、旧高岡市と福岡町が合併し富山県西部北地域の中心的都市として新たな歩みをはじめました。

海・山・川が織りなす豊かな自然に抱かれたこの地には、奈良時代には越中国府がおかれ、加賀藩2代藩主の前田利長による城下町としての開町を契機に、歴史・文化と商工業の地として、多くの先人の英知とたゆまぬ努力に支えられながら発展を続けてきました。

わたしたちは、先人から受け継いだこれらの豊富な資産をさらに磨き、世界に通じる「ものづくりのまち 高岡」を築いていきます。また、ふるさと高岡に誇りと愛着を持つ次代を担う人づくりに努め、市民一人ひとりが個性と能力を發揮し、夢と希望をもって、元気で豊かに暮らせるまちをつくっていきます。

万葉と前田家ゆかりの歴史と文化の詩情に出会える

ふれあい交流都市

万葉と前田家ゆかりの歴史と文化を継承・発展させ、新たな魅力に出会える「誰もが行きたい」まち

水・緑が織りなす自然の中で豊かさを実感できる

ゆとり快適都市

美しい環境の中で、充実感と安心感をもって、いきいきと暮らせる「誰もが住みたい」まち

市民の情熱とものづくりの活気があふれる

かがやき協働都市

創意工夫と活力に満ち、だれもが主役になれ、夢がふくらみ育つ「みんなでつくる」まち

第2章 まちづくりの目標

都市の将来像を実現するため、市民と取り組む5つのまちづくりの目標を掲げます。

1 飛越能 86万人のふれあいと交流のまち

「もてなしの心」をはぐくみ、高速交通網の整備を背景に広域観光など都市間連携・交流を積極的に推進し、環日本海時代における県西部の拠点都市にふさわしい魅力あふれる元気なまちづくりを目指します。

2 水・緑につつまれ安心して暮らせるやすらぎのまち

すべての市民が元気に満ちあふれ、庄川、小矢部川、雨晴海岸や二上山、西山丘陵などの水・緑が織りなす豊かな自然につつまれ、快適な住環境のなかで安心して暮らせるまちづくりを目指します。

3 心豊かな人をはぐくみ 万葉と前田家ゆかりの歴史と文化をたのしむまち

生涯にわたって心豊かな人を次代の担い手としてはぐくみ、市民が誇る万葉と前田家ゆかりの薫り高い歴史と文化を 21 世紀の新たな潮流の中で継承・発展・発信していくまちを目指します。

4 ものづくりの技と情熱がつくり出す にぎわいのまち

ものづくりの技が生きる銅器、漆器、菅笠などの伝統産業、未来を拓くアルミ、機械、化学などの先端産業及び地域の特性を活かした農林水産業の持続的発展、魅力あふれる商業の振興に努め、活力ある産業都市を目指します。

5 みんなで考え みんなでつくる みんなのまち

新しい時代にふさわしい市民に開かれた市政を実現し、市民参加と協働の取組みのもと個性あるまちづくりを進め、近隣自治体と連携しながら広域行政を積極的に推進します。

第3章 15年後の高岡の姿

5つのまちづくりの目標を達成すれば、15年後の高岡の姿は次のように考えられます。

1 飛越能 86万人のふれあいと交流のまち

北陸新幹線や東海北陸自動車道、能越自動車道の整備により、人、もの、文化の交流が飛躍的に進む。高岡駅・新幹線新駅周辺の一体的整備や中長距離定期バス路線の開設により、高岡市は富山県西部地域の広域中心核となっている。能越自動車道の福岡地内と、隣接市との連携により北陸自動車道に新たなインターチェンジが設置され、交流の拠点都市として発展している。

また、特定重要港湾伏木富山港の中核となる伏木外港は港湾機能が拡充され、環日本海の物流・交流の拠点となり、世界に開かれた国際貿易港として発展し、高岡市の産業・経済の進展に大きく寄与している。

新幹線新駅と高岡駅間は、城端線複線新駅の設置により、アクセスと利便性が格段に向上している。

高岡駅周辺では、商業複合ビルや橋上駅舎・南北自由通路などが完成するとともに、まちなか居住が進み、新幹線新駅周辺では観光情報提供施設や駐車場、公園の整備、宿泊施設等の集積が進み、両駅周辺が一体となって多くの市民や観光客で活気とにぎわいを見せている。

また、高岡駅を起点とした公共交通は、JR北陸本線、氷見線、城端線とのアクセスの向上と万葉線の延伸やコミュニティバス^{*1}の充実により、市街地の主要施設や見どころがネットワーク化され、市民生活や観光客の利用に役立っている。さらに、福岡地域をはじめ市街地周辺部には、多様な運行主体による地域バスルートも拡充されている。

高岡開町400年を経た中心市街地は、山町筋や古城公園、高岡大仏など歴史と伝統を活かした環境整備が進められている。また、無電柱化などの市街地整

^{*1} 主に市町村が主体的に関わり、中心市街地や公共交通が不便な地域において、既存のバス事業者だけではカバーしきれないきめ細かな路線を設定することで、利用者のニーズや利便性を最優先に考慮して運行するシステムのバス。

備やせせらぎ、主要路線に街路樹が計画的に整備され、四季を映し出す街路と質感ある歴史的景観が相まって、うるおいと情緒を醸し出す町並みを形成している。

また、高岡大仏の保存・修理、さらには高岡御車山会館も整備されるなど、観光機能の充実や観光関連産業の振興が図られている。

周辺市街地の伏木、戸出、中田、牧野、福岡などにおいては、土地区画整理、アクセス道路などの生活基盤が整備され、地域の魅力を活かしたまちづくりが進められている。

高岡ならではの食・土産品が多く開発され、「もてなしの心」で観光客を迎え入れる雰囲気や市民の間に満ちて、多くの観光客が来訪している。

また、飛越能地域や金沢、富山を結ぶ広域観光が推進され、都市間交流が活発化している。さらには姉妹・友好都市や環日本海諸国との間で、経済・文化・スポーツなどの幅広い分野での国際交流活動が促進され、魅力と活力ある国際交流・観光都市として発展している。

2 水・緑につつまれ安心して暮らせるやすらぎのまち

行政、ボランティア、NPOなどの連携による支援システムの充実により、高齢者や障害者が地域の中で、共にふれあい、いきいきと暮らせる地域づくりが進んでいる。また、地域を中心とした子育て支援の取組みも充実し、子どもを産み育てやすい環境となっている。

高齢社会を支える介護保険制度や地域ケア^{*1}などのサービスは、質・量とも十分に満たされている。また、市民病院をはじめ地域の公的病院と民間医療機関との連携による医療体制が充実し、生涯にわたる健康の保持・増進を目指した保健・医療・福祉の連携による市民の健康づくりが進んでいる。

庄川、小矢部川、雨晴海岸や二上山、西山丘陵、古城公園などの水と緑が良好に保全されている。市民の環境に対する意識の向上により、3R（廃棄物の発生抑制(Reduce)・再使用(Reuse)・再利用(Recycle)）が徹底され、効率的な広域ごみ処理施設が稼動するなど廃棄物対策が進んでいる。また、環境に配慮したエコショップ^{*2}やエコ事業所^{*3}が増加するなど、環境への負荷をできるだけ低減した資源循環型の社会となっている。

土地利用の制度が見直され、優良な住宅団地、ユニバーサルデザイン^{*4}の住宅が増えている。新駅周辺や、古城公園を中心としたまちなかは、緑とせせらぎのある歩いて楽しいまちとなり、子どもから高齢者まで三世代が交流し、共に快適に暮らしている。また、道路交通環境が整備されるとともに、除排雪体制の強化充実や環境に配慮した消融雪施設等の整備、地域ぐるみの除排雪の促進などにより、冬期間における快適な市民生活が確保され、安全で雪に強いまちとなっている。

消防拠点施設が適切に配置され、消防・救急・救助体制が整うとともに、市内全域に自主防災組織が結成され、行政と各地域が連携した防災訓練の実施や、救命講習の受講などを通じ市民の防災意識・救命技能は極めて高くなっている。

^{*1} 保健・医療・福祉の関係者をはじめ、地域の各種団体や住民が連携し、地域全体で高齢者を支えること。

^{*2} ごみ減量化・リサイクルに積極的に取り組むことを自ら宣言した小売店のこと。

^{*3} 地球環境に配慮した取り組みを積極的に実践している事業所。

^{*4} 文化・言語の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。

また上下水道などのライフライン^{*4}の強化、災害時の避難経路・施設の確保、構造物の耐震・防火対策が進むとともに、河川の改修や海岸線の整備に併せてうるおいある水辺空間の創出や地すべり、がけ崩れ対策により、安全で快適なやすらぎのまちとなっている。

^{*4} 生活・生命を維持するための水道・電気・ガス・通信などのネットワークシステム。

3 心豊かな人をはぐくみ 万葉と前田家ゆかりの歴史と文化をたのしむまち

創意工夫あふれる教育の中で、すべての子どもたちは豊かな心と確かな学力を身につけ、健やかな体をつくり、将来に向かって夢を持ち、いきいきと輝いている。

「ものづくり・デザイン科」の実習や万葉かるた大会への参加、二上山・西山丘陵での自然とのふれあいなど高岡らしい体験を通して、子どもたちは、生まれ育ったまち高岡が「ものづくりのまち」「歴史と文化のまち」であることを知り、ふるさとに対する誇りや愛着を深めている。小・中学校と高校、大学との連携によるものづくり教育は、「ものづくりのまち 高岡」のイメージを全国へと発信している。

子どもたちの安全、食育^{*1}、不登校やいじめなどの様々な問題に対して、学校、家庭、地域、行政が連携して支えあい、大人が子どもをしっかりと見守り、導いている。また、少子化に伴う通学区域の見直しや学校の再編統合が実施されるとともに、より地域に開かれた学校運営が行われている。

子どもたちが親になったとき、次代の子どもを自信をもって育てていけるよう、市民との協働による多様な子育て支援環境が充実・整備されている。

生涯学習センターや地域の公民館、伏木、戸出、中田、福岡地区等に整備されたコミュニティ施設^{*2}などを拠点として、幅広い世代の市民が、楽しみや生きがいづくりとしての生涯学習活動を活発に行い、その成果を活かして市民が主体となって元気な高岡のまちづくりが進められている。

また、美術館・市民会館・万葉歴史館・ミュゼふくおかカメラ館などの文化施設の整備が進み、市民はもとより各地から人が集まり、雅楽や能楽をはじめとする様々な芸術や文化に親しんでいる。博物館を核に、まちの小さな博物館のネットワークが整備充実され、各地域では長い歴史の中ではぐくまれてきた文化を愛する心が醸成されている。

国宝「瑞龍寺」や保存修理を終えた重要文化財「勝興寺」など数多くの文化財、山町筋や金屋町などの歴史的な町並み、「高岡御車山祭」、「伏木曳山祭」、

^{*1} 食べ物の安全に関する知識、身体によい食べ物の選び方や組み合わせ方を学び、「食事の自己管理能力」を養う教育。広義には、食卓での一家団楽を通じて社会性を育むなど、わが国の食文化を理解することも含む。

^{*2} 地域社会の結合の中心的役割を果たす施設。集会所・公民館・福祉会館などの類。

「福岡つくりもん祭り」をはじめ各地域に根差した様々な伝統文化が市民の手によって守られている。さらに、高岡城跡（古城公園）と前田利長墓所が国の史跡に指定され、木舟城、守山城の調査・整備も進んでいる。こうした高岡の財産は、市民一人ひとりによって磨かれ、それらをまちづくりに活かし全国に積極的に発信しており、連日、市内外から多くの観光客が訪れている。

健康づくりとしてのスポーツ意欲の高まりとともに、新たな総合グラウンドや総合体育館等の諸施設やパークゴルフ・グラウンドゴルフ場等のレクリエーション施設が整備され、年齢を問わずスポーツ・レクリエーション活動を楽しんでいる。競技スポーツも盛んに行われ、将来を担う子どもたちが自らの技術を高めようと意欲的に取り組んでいる。さらに、全国的なスポーツ大会も定期的開催され、スポーツ選手も輩出するなど、スポーツを通じてまちがにぎわっている。

4 ものづくりの技と情熱がつくり出す にぎわいのまち

高速交通網の整備に伴い、インターチェンジ周辺などに企業用地が確保され、企業団地の造成も先行的に進められたことにより、首都圏、中京圏などからの企業誘致が進んで新規雇用や就業機会の拡充をもたらし、先端産業系の企業が若者をひきつけるなど、にぎわい創出の大きな一翼を担っている。

ものづくりの基盤となる優れた技術を有する市内の既存企業は、産・学・官の連携強化や企業間交流などによって、新技術・新商品開発、新分野進出を果たし、産業集積による地域の優位性を確立している。また、創業者支援センターなどから巣立ったベンチャー企業^{*1}が新たな産業を創出し、より高次の工業集積が生まれている。

歴史と伝統にはぐくまれた銅器、漆器や菅笠などの「ものづくりの技」が連綿と受け継がれ、これに新しいデザインや技術開発などが加わり、「高岡ブランド」がより強固なものとなっている。地場産業・伝統産業が活性化と発展を遂げている。

こうした先端産業等の集積や地場・伝統産業の技の継承、さらには「ものづくり・デザイン科」の授業の継続により、伝統産業の後継者が育ち、全国の様々な分野へ人材を輩出している。このことによって、デザインから製品まで「ものづくり」に関する技術・人材がなんでも揃う「ものづくりのまち 高岡」の知名度がさらに高まっている。

また、富山大学芸術文化学部をはじめとする学術・研究機関には、国内外から「高岡留学」を志す若者が集まり、卒業生が市内外に人や情報のネットワークを形成している。

農林水産業は、良質な水がはぐくむ美味しいコメづくりをはじめとして、新鮮で安全・安心な野菜やチューリップ、リンゴなどの農産物の産地化と地産地消^{*2}が大いに進められ、都市近郊型の農業が発展している。また、再生可能な農産物資源を活用したバイオマス^{*3}が実用化され、資源のリサイクルと

^{*1} 新技術や高度な知識を軸に、大企業では実施しにくい創造的・革新的な経営を展開する中小企業。

^{*2} 地域で生産されたものを、地域で消費すること。食の安全性、低い食料自給率等、農林水産業の縮小化傾向の問題などから、もう一度「地場産品」を見直し、地域の活性化を図ろうという運動。

^{*3} 物資源(バイオ/bio)の量(マス/mass)をあらわし、エネルギー源として再利用できる動植物から生まれた有機性の資源のこと。石油や石炭などの化石資源と対比して、「生きた燃料」ともいわれている。

環境にやさしい取り組みが進められている。一方、中山間地域では、竹の子やわらびなどの山菜、椎茸や炭などの特産林産物の生産が拡大している。さらに、サザエや岩牡蠣などの栽培漁業^{*4} やサケ、鮎、鯉などの養殖業も盛んである。

地場産品の活用や農業体験活動などを通じ、家庭、学校、地域で食育が進んでいる。

農山漁村の環境整備が進み、生産基盤が整備されるとともに、新たに青年や中高年齢者層などの担い手が育ってきている。

西山丘陵では、市民参加のもと森づくりが進められ、水源かん養や動植物の生息地としての自然環境の保全、市民のレクリエーションの場としての森林整備が進んでいる。

高岡駅及びその周辺地区では、歴史・文化資産の保存と観光機能の充実が図られたことに加え、緑あふれる良好な景観が形成された歩きやすい道路網や公共交通網の整備、公共施設の充実、まちなか居住の推進やオフィスの立地などにより、昼夜間人口が増大し、活気あふれる市街地が形成されている。

中心市街地では、地産地消の生鮮品が並ぶ「市」^{いち}が形成されている。また、再開発等により整備された拠点施設を核として、それらを結ぶ個性的な店舗が並び、回遊性が創出されるとともに、商店街のモール化^{*5}が進んでいる。

伏木、戸出、中田、福岡などの各地の商店街では、各地域の歴史や伝統など、地域の特性を活かした便利で快適なまちづくりが進められている。

このように、「生活者に便利なまち」や「ものづくりのまち」に代表される個性的なまちづくりが進展したことにより、商店街は若者をはじめ様々な人々でにぎわっている。

^{*4} 種苗生産、中間育成、放流、管理、漁獲までを行う新しい漁業のこと。

^{*5} 良好な道路空間や小公園等の潤いのある空間とともに、魅力的な店舗が配置され、商空間としての賑わいが創出されている状態。

5 みんなで考え みんなでつくる みんなのまち

男女が、お互いを尊重し、認め合い、支え合い、様々な分野で一人ひとりの個性と能力を発揮する一方、労働条件や子育て支援などの環境も整備され、すべての人が健康でいきいきと楽しく暮らしている。

身近な公共施設や公園の管理・運営、子育て支援や地域ぐるみの見守りをはじめ、福祉、防災、環境、交流等様々な分野で市民の力が発揮され、学校や企業も地域の一員として行政と連携して活躍している。市民から提案された協働モデル事業は、それに共感した多くの市民が参画し、一人ひとりがまちづくりを支えている。

従来の公民館に加え、新たなコミュニティ施設を中心に、自治会活動、ボランティア活動、NPO活動など地域社会を支える市民の主体的な活動が各地区で活発に行われている。

さらに、市政をともに考えるため、市民生活のあらゆる場面に普及したインターネットをはじめとする情報通信技術等を活用し、個人情報保護、情報セキュリティ対策^{*1}のもと、市内の情報関連産業との連携・協力も得ながら積極的な情報提供が図られ、市民と市が対話の中で信頼関係を持ってまちづくりが進められている。

情報化社会を支える人材が輩出するとともに、市内には情報関連産業が集積し、若年層の雇用の場を確保している。

継続的な行財政改革の取組みにより、民間企業の経営的視点を取り入れた簡素で効率的な行政体制が構築されている。各種産業、観光戦略施策などにより活性化した経済活動に伴い、税財源基盤が安定し、さらに市民との協働のもと、地方分権の推進や多様化、複雑化する市民ニーズに的確に対応する市政運営がなされている。

高岡広域圏の取組みが充実し、ゴミ処理、交通、広域観光、防災をはじめ様々な広域連携事業が周辺自治体との間で進展したこともあり、新たな合併に向けて話し合いも始まっている。

^{*1} 情報システムを取り巻く自然災害、障害・故障、エラー、不正行為等の脅威に対し、その発生の予防策や発生した場合の対応策。

都市の将来像

まちづくりの目標

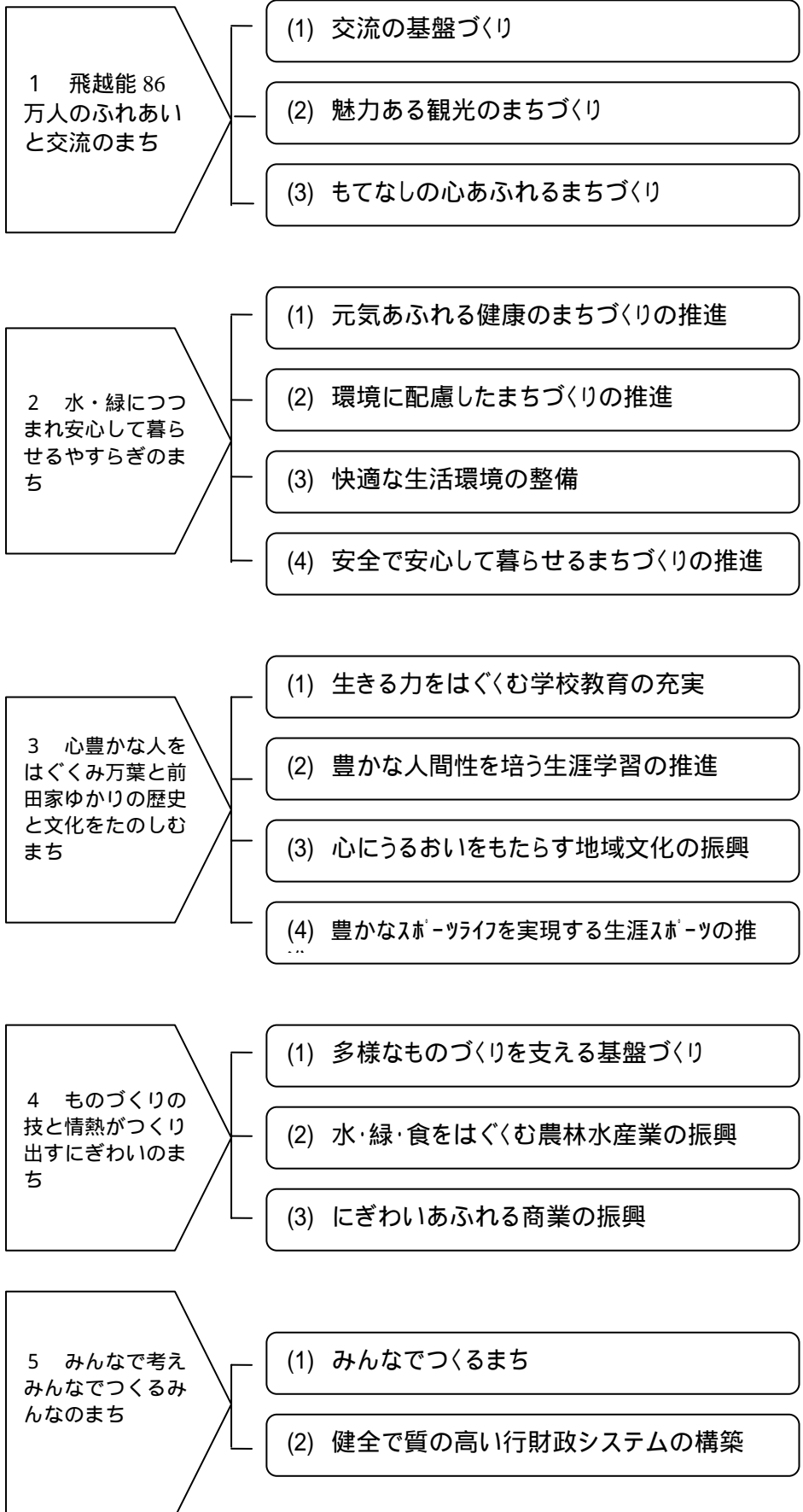
政策

水・みどり・人

光り輝く躍動のまち

高岡

かがやき協働都市（みんなで作る）
 ゆとり快適都市（住みたい）
 ふれあい交流都市（行きたい）



<p>【交流の基盤づくり】 北陸新幹線、能越・東海北陸自動車道の建設促進 高岡駅・新幹線新駅周辺の一体的整備 市街地の整備</p> <p>【魅力ある観光のまちづくり】 観光資源の発掘と保存・活用 歴史的景観の保全・活用</p> <p>【もてなしの心あふれるまちづくり】 広域観光の推進 イメージアップ・誘致活動の強化</p>	<p>幹線道路網・地域公共交通体系の整備 港湾の整備・活用</p> <p>良好な都市景観の創出</p> <p>国内交流の推進 国際交流・国際観光の推進</p>
<p>【元気あふれる健康のまちづくりの推進】 地域福祉の推進 子ども・子育て家庭への支援の充実 障害者（児）福祉・自立支援対策の充実</p> <p>【環境に配慮したまちづくりの推進】 環境保全意識の高揚 環境保全対策の充実</p> <p>【快適な生活環境の整備】 住宅・宅地の整備 生活道路の整備 上・下水道の整備</p> <p>【安全で安心して暮らせるまちづくりの推進】 防災対策の充実 雪対策の充実 交通安全・防犯対策の充実</p>	<p>高齢者福祉の充実 生涯を通じた健康づくりの推進 医療体制・医療制度の充実</p> <p>ごみの減量化・資源化の推進 広域ごみ処理施設の整備</p> <p>緑化の推進と保全 河川・海岸の保全・整備 総合斎場の整備</p> <p>消防・救急・救助体制の充実 消費生活の向上</p>
<p>【生きる力をはぐくむ学校教育の充実】 確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育の推進 地域に開かれた特色ある教育活動の充実</p> <p>【豊かな人間性を培う生涯学習の推進】 生涯学習推進体制の充実 生涯学習機会の提供</p> <p>【心にうるおいをもたらす地域文化の振興】 地域に根ざした芸術・文化活動の育成</p> <p>【豊かなスポーツライフを実現する生涯スポーツの推進】 生涯スポーツ活動の充実</p>	<p>教育効果を高める教育環境の充実</p> <p>高等学校・高等教育機関の充実・連携</p> <p>生涯学習基盤の整備・充実 未来を担う世代の育成と若者が主体となるまちづくりの推進</p> <p>文化財の保存・活用</p> <p>スポーツ施設の充実と効率的な活用</p>
<p>【多様なものづくりを支える基盤づくり】 工業基盤の整備・企業誘致の推進 地場・伝統産業の振興 産業間の連携促進</p> <p>【水・緑・食をはぐくむ農林水産業の振興】 農業の持続的発展 農山村の振興</p> <p>【にぎわいあふれる商業の振興】 商業・サービス業の振興</p>	<p>雇用・勤労者福祉の充実 金融対策の充実</p> <p>林業の振興 水産業の振興</p> <p>中心市街地活性化の推進</p>
<p>【みんなでつくるまち】 平和な地域社会の形成 男女平等・共同参画社会の実現 協働のまちづくり</p> <p>【健全で質の高い行財政システムの構築】 簡素で効率的な行財政の推進</p>	<p>市民に開かれた市政の推進 高度情報化の推進</p> <p>活力と魅力あふれる広域行政の積極的推進</p>

第5章 まちづくりの目標達成のための基本方針

計画の大綱で示した5つのまちづくりの目標ごとの政策や施策の基本方針は次のとおりです。

1 飛越能 86万人のふれあいと交流のまち

(1) 交流の基盤づくり

高速交通網の整備による人、もの、文化の交流拡大を図るため、高岡駅周辺及び新幹線新駅周辺を含むエリアの一体的整備をはじめ、高次都市機能^{*1}の集積を促進し、飛越能の玄関口としての拠点都市を目指します。

また、港湾機能の拡充や幹線道路網の整備、地域公共交通体系の整備により交通ネットワークの充実を図ります。

北陸新幹線、能越・東海北陸自動車道の建設促進

大都市圏及び地方都市との交流や経済活動を活性化させる高速交通網の整備を促進します。これを活用し高速道路のインターチェンジ周辺への生産・物流機能の立地や農業との調和にも配慮した都市的な土地利用を図ります。また、北陸自動車道、能越自動車道に新たなインターチェンジの設置を目指します。

高岡駅・新幹線新駅周辺の一体的整備

高岡駅周辺及び新幹線新駅周辺を含むエリアを一体として、緑とせせらぎ等によるうるおい空間の創出を図りながら、利便性を考慮した高次都市機能の集積を促進し、交通結節機能の充実、南北一体化の推進等、飛越能地域の玄関口としての環境整備を進めます。

市街地の整備

中心市街地においては、既存の都市機能の集積を活かし、幹線道路や公共建築物等のユニバーサルデザイン化などを進め、都市機能の向上と魅力的な都市空間の創出を図ります。

周辺市街地においては、福岡駅前の土地区画整理事業等で、そ

^{*1} 居住、就業、娯楽、交通などの単一都市機能を複合化することにより、多様で質の高いサービスの提供と、より快適な都市活動ができる機能。

それぞれの地域がもつ町並みや景観などの特色を活かした一体的整備や充実した生活圏の形成を図ります。

幹線道路網・地域公共交通体系の整備

高速交通網とアクセスし、都市交通の骨格となる幹線道路網の整備を促進するとともに、JR北陸本線、氷見線、城端線及び万葉線やコミュニティバスなどの公共交通網や交通機関相互の結節性を活かして、広域的な拠点としての交通ネットワークの充実を図ります。

港湾の整備・活用

伏木外港の建設と港湾機能の拡充を促進し、環日本海交流の拠点としての国際貿易港の整備と活用を図ります。また、魅力あるウォーターフロント(快適で親しまれる港湾空間)の整備を図ります。

(2) 魅力ある観光のまちづくり

豊かな観光資源の活用とネットワーク化を図るとともに、食のブランド化や土産品の開発に努めます。

また、歴史と伝統を活かした環境整備やうるおいのある都市景観の保全・向上に努めます。

観光資源の発掘と保存・活用

豊かな観光資源を活用するとともに、地域の観光資源の再評価・発掘やネットワーク化に努め、観光客が回遊しやすい周辺環境整備の充実を図ります。また、高岡ならではの食のブランドや土産品の開発に努めます。

歴史的景観の保全・活用

歴史的・伝統的な町並みの保存・保全や町並みに調和した道路空間の整備など、歴史と伝統を活かした環境づくりを進め、歴史的景観の向上に努めます。

良好な都市景観の創出

固有の歴史、文化、風土を活かした、高岡らしい個性的な美しい都市景観の形成に努めるとともに、市民の積極的な参加と意識高揚を図ります。

(3) もてなしの心あふれるまちづくり

高速交通網の整備による新たな観光ルートの開発や豊富な観光資源をつなぐ広域観光を推進します。また、もてなしの心で国内外からの来訪者を迎えるなどイメージアップを図ります。都市間交流、国際交流においては幅広い分野での交流活動を促進します。

広域観光の推進

各地域の観光資源を結びつけた広域観光を推進するため、周辺地域と一体となって広域観光ルートの開発とPRに努め、観光客の誘致を図ります。

イメージアップ・誘致活動の強化

市民一人ひとりが高岡のよさを再認識し、愛着と誇りを持ち、もてなしの心で来訪者を迎えるとともに、まちの魅力を様々なかたちで発信していくことにより、イメージアップを図り、国内外の観光客の誘致へとつなげます。

国内交流の推進

都市間交流の促進や各種団体の全国大会・スポーツ大会の誘致に努め、交流人口の拡大に努めます。

国際交流・国際観光の推進

環日本海地域の諸国をはじめ、姉妹都市、友好都市^{*1}などとの市民の幅広い交流活動を推進します。

また、温かい心で外国の人々と接することのできる市民意識の高揚を図るとともに、外国人が住みやすく、国外からの観光客が気軽に楽しめる魅力あるまちづくりを進めます。

^{*1} フォートウェーン市(アメリカ合衆国)、ミランドポリス市(ブラジル共和国)、錦州市(中華人民共和国)

2 水・緑につつまれ安心して暮らせるやすらぎのまち

(1) 元気あふれる健康のまちづくりの推進

すべての市民が心身ともに健やかに暮らせるよう、保健・医療・福祉の連携のもとに、地域団体や NPO 等とも協働し、社会全体の力を合わせて健康のまちづくりを推進します。

地域福祉の推進

すべての市民の人間性が尊重され、共に生きるという考えのもと、自立と社会参加が可能な温もりのある福祉社会の実現に向け、地域における基盤形成と活動の推進に努めます。

子ども・子育て家庭への支援の充実

次世代を担う子どもを安心して生み、育てることができる環境づくりと、すべての子どもの権利を守りながら、地域全体で子育てを支援する体制の充実に努めます。また、子育てを通して親自身が成長することや、子育ての意義や楽しみを感じることでできる親を育てる環境づくりに努めます。

障害者（児）福祉・自立支援対策の充実

障害者（児）がそれぞれの能力を発揮し、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、福祉サービスによる支援と施設の有効活用に努めます。また、地域での交流を図るため、スポーツ・文化活動への参加や就業による社会参加の促進等に努めます。

高齢者福祉の充実

高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って、自分らしい生活が送られる社会の構築に努めるとともに、様々な交流活動や健康づくり事業の充実に努めます。また、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めるため、介護保険事業の計画的、安定的な運営に努めます。

生涯を通じた健康づくりの推進

乳幼児から高齢者に至るまでの生涯を通じて、心身ともに健康を保持し、健やかに暮らすことができるように、きめ細やかな保健対策を進めるとともに、市民が主体的に健康管理や健康増進に

取り組むことのできる環境をつくります。

医療体制・医療制度の充実

市民がいつでも適切でより質の高い医療を受けることができるよう、市民病院の高度医療機能の向上に努めるとともに、急患医療センターや、他の公的病院、民間医療機関との連携を密にし、地域の医療体制を充実します。

また、国民健康保険制度・後期高齢者医療制度の適正な運営を図り、市民の健康管理意識の高揚、医療給付と負担への理解を深めます。

(2) 環境に配慮したまちづくりの推進

環境問題が深刻化する中、良好な環境を次世代に受け継いでいくため、市民、事業者、行政が一体となって、地球環境に配慮した省資源・省エネルギー、環境保全に努め、環境にやさしいまちづくりを推進します。

環境保全意識の高揚

市民一人ひとりが地球環境問題に対する認識を高め、地域環境を自らの手で保全しようとする意識を醸成するとともに、市民、事業者、行政が一体となって、環境に配慮した活動を促進します。

環境保全対策の充実

快適な環境づくりのため、市民総ぐるみで環境美化運動を促進するとともに、生活環境の保全のため、大気・水・騒音等について、規制・指導監視体制の充実に努めます。

ごみの減量化・資源化の推進

市民の理解と協力のもと、ごみの分別収集の徹底と効率化を図るとともに、ごみの3R活動^{*1}に関する普及・啓発事業の推進に努め、市民一人ひとりの意識を高め、市民や事業者の自主的なゴミの減量化・資源化等の活動を促進します。

広域ごみ処理施設の整備

ごみ焼却処理施設の老朽化とごみ処理の広域的な取組みに対応するため、高岡地区広域圏事務組合で、ごみ処理施設を建設します。

^{*1} 廃棄物の発生抑制(Reduce)・再使用(Reuse)・再利用(Recycle)のこと。

(3) 快適な生活環境の整備

人と自然が調和した快適な生活環境となるよう、上・下水道や河川、海岸の整備などを推進するとともに、緑化空間の創出など水と緑が活かされた住みやすいまちづくりを目指します。

住宅・宅地の整備

良質な賃貸住宅を供給するため、市営住宅の建替えや住戸の改善を進めます。また、まちなか居住や若者の定住に向け、民間活力による住宅整備を支援し、優良な住宅供給を促進します。

生活道路の整備

市民の日常生活を支える市道の改良等を行い、機能的な生活道路網の形成を図るとともに、民間活力による市街地での計画的な宅地供給を促すための道路整備に取り組みます。

また、地域の文化、景観などに配慮した整備を行い、安全で快適な道づくりを推進します。

上・下水道の整備

市民生活、都市基盤を支える重要なライフラインである上水道・下水道を計画的に整備し、利用者の拡大と生活環境の改善を図るとともに、事業経営の安定化に努めます。

また、下水汚泥は、資源の循環型社会を形成する観点からもリサイクルによる有効活用を推進します。

緑化の推進と保全

道路や水辺空間などの緑化を図り、緑のネットワークづくりを推進するとともに、自然環境における緑、歴史が伝える緑（瑞龍寺・勝興寺周辺等の風致地区や散居村等）、公園や公共施設における緑の保全と活用を図ります。

河川・海岸の保全・整備

安全・安心な河川、海岸域を確保するため、河川の改修や海岸の侵食対策を進めるとともに、河川及び海岸域の活用を図るため、市民が親しむことのできる水辺空間の創出など環境整備事業を計画的に進めます。

総合斎場の整備

市内に分散している火葬場を統合し、火葬場、待合棟、斎場棟を備えた総合斎場を建設します。

(4) 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進

市民の生活に関わる防災・防犯体制の整備や交通安全対策の推進、消費生活の向上を図り、市民が心やすらかに暮らせる安全・安心なまちの実現を目指します。

防災対策の充実

都市化の進展や自然環境、社会環境の変化に伴って複雑・多様化する災害等を未然に防ぎ、また、被害を最小限に止めるため、より充実した防災体制を確立するとともに、地すべり、がけ崩れ対策を進め災害に強いまちづくりを推進します。

雪対策の充実

幹線道路、通学路や歩道、主要な公共施設へのアクセス道路などの消融雪や除雪を強化充実するとともに、地域ぐるみでの除排雪を促進するなど、自分たちで出来ることは自分たちでという意識のもと行政と市民が一体となって雪害のないまちづくりを推進します。

交通安全・防犯対策の充実

交通事故を未然に防止するため、市民の交通安全意識の普及・啓発に努めるとともに、子供や高齢者、障害者などに優しい道路交通環境の整備に努めます。

また、防犯意識の啓発と防犯運動の推進により、犯罪の起こりにくい環境を整備し、市民が安心して暮らせる生活環境の実現に努めます。

消防・救急・救助体制の充実

火災をはじめ複雑・多様化する災害を未然に防止し、被害を軽減するため、消防力の充実や火災予防の推進、常備消防^{*1}の広域化などを図るとともに、救急・救助体制を整備し、市民生活の安全を確保します。

消費生活の向上

消費者が正しい知識に基づき自ら判断し行動できるよう、情報

^{*1} 日本における消防専門の市町村部局で、消防本部として消防組織法に基づいて市町村に設置される。消防本部の業務実施機関として消防署が置かれる。

提供に努めるとともに、消費者保護を推進し、消費生活の安定と向上に努めます。

3 心豊かな人をはぐくみ 万葉と前田家ゆかりの歴史と文化を たのしむまち

(1) 生きる力をはぐくむ学校教育の充実

子どもたちが心豊かでたくましく生きる力をもって育つよう、
社会全体で創意工夫あふれる教育の充実を図ります。

確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育の推進

基礎学力の定着を図るため、教師の指導力の向上や多様な学習
指導の充実に努めるとともに、自他の生命や人権を尊重する心の
教育、食育や健康教育など様々な教育活動を通じて、知・徳・体
の調和のとれた、心身ともに健全な人間形成に努めます。また、
人間形成の基盤を培う幼児教育の充実を図るため、幼・保・小の連
携など、発達段階にふさわしい教育を行います。

地域に開かれた特色ある教育活動の充実

地域の教育力を活かし、環境教育や福祉教育など特色ある学校
づくりや小中一貫教育^{*1}など新しい教育システムを推進します。
また、子どもたちが、情報・国際化社会の中で生きていくための
広い視野と豊かな情報・国際感覚を育てます。さらに、ふるさと
高岡の豊かな自然、歴史、文化を学ぶとともに、「ものづくりのま
ち高岡」の特性を最大限に活かした学習やボランティア活動など
を通じて、職業観の育成と郷土を愛する心を育てます。

教育効果を高める教育環境の充実

教育内容・方法の多様化、児童生徒数の増減等の学校運営に影
響を及ぼす社会情勢の変化に対応した、教育施設の充実と改善、
余裕教室の活用、通学区域の見直し、学校再編統合等に取り組み
ます。また、家庭や地域と連携して、子供たちの安全確保に努め
ます。

^{*1} 前期初等教育（一般の小学校で行なわれている教育）と後期初等教育（一般の中学校
で行なわれている教育）の課程を調整し、一貫性を持たせた体系的な教育方式のこと。

高等学校・高等教育機関の充実・連携

高等学校においては、生徒数の動向にあわせた規模の適正化や特色ある学科の設置などを促進するとともに、高等学校や大学における各種講座や施設の地域開放の促進など、広く社会に開かれた教育機関となるよう要請していきます。また、産・学・官の連携や義務教育との連携にも努めていきます。

(2) 豊かな人間性を培う生涯学習の推進

すべての市民が生涯にわたり、あらゆる学習の機会を通じて知識や技術を習得し、心身の健康の保持・増進、自己形成と生活の質の向上を図ることができる環境づくりに努めます。

生涯学習推進体制の充実

市民の誰もが積極的に生涯学習活動に参加できるよう、生涯学習推進のための組織の充実や連携強化を図るとともに、その成果が家庭や地域社会の中で活かされる体制の充実に努めます。

生涯学習機会の提供

あらゆる世代の人が、ライフステージ^{*1}に応じて主体的に生涯学習活動に参加し、心豊かな充実した生活を送ることができるように、社会の変化や市民ニーズに応じた多様な生涯学習活動の機会と場の提供の充実に努めます。

生涯学習基盤の整備・充実

市民の生涯学習活動や交流の拠点である公民館やコミュニティ施設などの整備を推進します。また、生涯学習関連施設・機関のネットワーク化を進め、学習情報等の提供機能の充実に努めます。

未来を担う世代の育成と若者が主体となるまちづくりの推進
地域全体で子どもを育てるために、ジュニア育成指導者の養成や子育て支援教育の充実に努めるとともに、学校・家庭・地域社会が連携して、体験活動の場・機会の充実、健全な社会環境づくりを推進します。また、若者のイベントやまちづくり活動への積極的な参加と若者のネットワークづくりを促進します。

^{*1} 人の一生を少年期・青年期・壮年期・老年期などと分けた、それぞれの段階。

(3) 心にうるおいをもたらす地域文化の振興

市民が地域の歴史・伝統・文化・風土を活かした芸術・文化活動に親しむとともに、地域に残る文化資産の保存・整備・活用を通じたまちづくりを促進します。

地域に根ざした芸術・文化活動の育成

市民一人ひとりが主体的に参加できる芸術・文化活動の活性化に努めます。また、万葉や伝統工芸など高岡固有の歴史・文化を大切にするとともに、雅楽など特色ある伝統芸能を育てます。

活動の拠点となる万葉歴史館、ミュゼふくおかカメラ館、美術館、博物館、市民会館などの施設の整備や機能の充実を図るとともに、施設間のネットワーク化、運営面における市民参加の促進に努めます。

文化財の保存・活用

文化財や郷土の歴史に関する資料収集や調査などに努め、それらを守り、育て、次世代へ継承していくことを通じて、郷土愛の醸成を図ります。また、市民が主体的に歴史や文化財の保存・活用の活動に参加できる環境づくりを推進し、観光の振興や歴史文化を活かしたまちづくりを進めます。

勝興寺の修復を推進し、高岡城跡（古城公園）と前田利長墓所は、国の史跡に指定されるよう努めるとともに、木舟城、守山城の調査・整備を進めます。

「近世高岡の文化遺産群」（瑞龍寺、勝興寺、高岡城跡、前田利長墓所等）の世界文化遺産^{*1}登録を目指し、市民ぐるみの取組みに努めます。

^{*1} 1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づいて、世界遺産リストに登録された遺跡や景観そして自然など、人類が共有すべき普遍的な価値をもつものを指す。文化遺産は、すぐれた普遍的価値をもつ建築物や遺跡などである。

(4) 豊かなスポーツライフを実現する生涯スポーツの推進

市民の誰もがライフステージに合わせたスポーツや健康づくりを楽しむことができ、ジュニア層を中心とした競技力の向上が図られるよう、スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実に努めます。

生涯スポーツ活動の充実

市民の生涯スポーツの振興を図るため、スポーツ・レクリエーションイベントやスポーツ教室の開催など様々な参加機会の拡充に努めます。

また、指導者の養成や競技団体の指導体制の強化・充実に努め、ジュニア層を中心とした選手の育成強化を支援し、競技力の向上を図ります。さらに、国際大会や全国大会の誘致に努めます。

スポーツ施設の充実と効率的な活用

市民のスポーツ活動の場となる、総合グラウンドや総合体育館、パークゴルフ場、グラウンドゴルフ場などのスポーツ・レクリエーション施設を計画的に整備します。また、学校体育施設開放や既存スポーツ施設の効率的な活用を図るとともに、誰もが利用しやすい施設運営に努めます。

4 ものづくりの技と情熱がつくり出す にぎわいのまち

(1) 多様なものづくりを支える基盤づくり

高速交通網の整備進展を活かし、企業誘致などを積極的に進めるため、企業団地の造成や用地の確保に努め工業集積を高めます。また、産・学・官の連携と産業間の交流を強化・促進し、産業の発展を促す環境づくりを進め、魅力ある雇用の場の創出を図ります。

地場産業、伝統産業のデザイン開発力の強化や後継者の育成、技術・技法の保存と継承などを図り、地場産業、伝統産業の活性化を推進します。

工業基盤の整備・企業誘致の推進

新規企業の誘致や既存企業の拡張に充てるため、高速道路インターチェンジ周辺等に良質な企業団地を造成し、企業立地助成制度を活用しながら、中京圏、近畿圏及び首都圏等からの先端技術産業等の誘致を図ります。

また、産業構造の転換を図るため、創業者支援センター、SOHO事業者^{*1}支援オフィスの充実を図り、ベンチャー企業等による新産業・新事業が育つ環境づくりに取り組みます。

地場・伝統産業の振興

地場産業センターやデザイン・工芸センターを核として、銅器・漆器などの伝統産業が持つ伝統技術の保存継承や後継者の育成に努めるとともに、伝統産業等が有する技術と本市の地場産業であるアルミ産業、プラスチック産業、ガラス加工業などが持つ多岐にわたる素材加工技術の融合を図り、付加価値の高い技術開発、新商品開発、デザイン開発の促進に取り組みます。

また、ものづくりの技術が高岡に集積していることをPRし「ものづくりのまち高岡」を全国に発信します。

産業間の連携促進

本市に立地する県工業技術センター、総合デザインセンター、産業高度化センター等の産業支援機関や富山大学等の教育機関とのネットワークを構築することにより、企業のデザイン開発力の

^{*1} パソコンなどの情報通信機器を利用して、小さなオフィスや自宅などでビジネスを行っている事業者。

強化や情報通信、技術・研究開発を支援し、新技術・新製品開発を進めるなど、新産業・新事業が育つ環境づくりに努めます。

また、幅広い企業間の交流と連携、さらには全国の産業集積地との交流を活発にし、同業種間、異業種間の経営資源の融合による新たな事業分野への進出を支援します。

雇用・勤労者福祉の充実

技術革新や産業構造の変化に伴い、多様化する労働力需要を満たす人材を確保するため、企業・雇用情報を積極的に全国に発信し、富山大学芸術文化学部をはじめとする新規学卒者の市内企業への就業やU・Jターン^{*2}の促進を図ります。

また、中高年齢者の持つ経験や技能、知識などを活用していくための雇用の場の創出や、女性の雇用機会の確保、障害者の雇用促進に努めるとともに、勤労者福利厚生事業を充実し、勤労者の生活の安定と福利厚生の向上を図ります。

金融対策の充実

中小企業者の経営の安定や新たな設備投資等を促進するための制度融資の拡充を図るとともに、優れた技術やアイデアを有する中小企業者や新規創業者に対する円滑な資金供給を行い、中小企業の経営基盤の安定・強化に努めます。

また、小口資金融資制度や未組織勤労者融資制度など勤労者融資制度の充実を図ります。

^{*2} 大学進学あるいは中学校・高校卒業時の就職で地方から大都市圏に出た後、再び地方に就業・移住すること。Uターンは出身地に、Jターンは出身地の経路にある地域に、ターンは出身地と異なる地域に移ること。

(2) 水・緑・食をはぐくむ農林水産業の振興

農林水産業の生産基盤の整備、担い手の確保を図り、農山漁村の生活環境の整備と農地等の保全・管理を推進するとともに、農産物等の「高岡ブランド」の確立と発信に努めます。

また、「高岡市森づくりプラン」に基づく森林の再整備を推進します。

農業の持続的発展

食糧の安定供給に向け、生産基盤の整備を図り、生産性の高い水田農業を推進するとともに、効率的かつ安定的な農業経営の確立と担い手の確保育成を図り、農業の持続的発展を目指します。

また、チューリップの球根・切花、なたね油、りんご、大根など農業特産品の開発・ブランド化を図るとともに、森林・海資源を含めたアグリビジネス^{*1}を振興し、農業生産額の増大を目指します。

農山村の振興

農業が持つ自然環境の保全や良好な農村景観の形成、文化の継承、生活の基盤となる湧水や緑資源、生き物といった生態系を保全するなど、多面的機能を維持・充実・活用するため、都市との交流を進めるとともに、農村環境の整備に努めます。

農地、農業用水等を適切に保全し、質的向上を一層図るため、農地・水・環境保全向上対策事業や国営総合農地防災事業に取り組みます。

また、山村振興計画を策定し、山村地区の振興を図ります。

林業の振興

水源のかん養や防災機能など、森林が持つ多面的機能を発揮させるため、適正な森林施業により健全な森林資源の維持と整備に努めます。

水産業の振興

クルマエビ、サザエや岩牡蠣などの栽培漁業の振興、及びサケ、アユや鯉の魚族資源の確保を図り、漁業経営の安定化に努めます。

^{*1} 農林水産・食品関係の産業のこと。種苗、種畜、飼料、肥料、薬品、農業用施設・装置などの農業用資材のほか、農産物や食品の貯蔵、加工、流通など幅広い分野が含まれる。最近では、ITやバイオテクノロジーによる高付加価値農業と地域発展に関連して「アグリビジネス」が使用されることが多い。

(3) にぎわいあふれる商業の振興

魅力ある商店・商店街づくりを推進し、来街者や生活者にとって便利でにぎわいある商業空間の整備に努めます。また、卸・流通業の振興を図るため、物流環境の整備・向上を促進し、機能強化に努めます。

商業・サービス業の振興

卸売業は、高速交通網の整備により、物流環境が著しく変化することから、地元製造業や小売業との連携のもと、流通業務の多様化、簡素化に対応できるよう、問屋センターの機能向上を支援します。

地方卸売市場は、富山県西部の拠点市場としての役割を果たすため、生産者・農業団体と連携を図り、地元生鮮品の安定的な供給が図られるよう、生産物の集約機能と市場への供給機能の強化を図ります。また、新幹線新駅に近接することから、市民や観光客も利用できる機能整備に努めます。

小売業においては、大型店にはないきめ細かいサービスの提供や魅力ある個店づくりを推進します。また、地域ごとの各商店街それぞれの魅力を高め、地域の特性を活かした商店街づくりを推進します。

サービス業においては、新規創業等を支援するとともに、高岡の歴史、文化を活かす観光関連産業の振興に努めます。

中心市街地活性化の推進

富山県西部地域の中核都市として、高岡駅周辺に広がる本市の中心市街地の活性化を推進するため、高岡市中心市街地活性化基本計画に基づき、高岡の歴史・文化・伝統・ものづくりを感じることでできるまちづくりに努めます。

まちなか居住の推進や公共交通の活性化、道路整備を進めるとともに、公共公益施設の拡充を図りながら、働く場所の確保や魅力ある商業空間の創出に努めます。特に、中心商店街においては、高岡らしい特色ある商店街づくりを進めるため、再開発事業により整備された各拠点施設の機能強化を支援するとともに、空き店舗対策や商業施設の再編等に積極的に取り組み、市民が歩いて買物を楽しめ、観光客にも魅力ある商店街づくりを進めます。

そのため、旧TMO^{*1}をはじめ、まちづくり活動に参画する個人、企業、団体等からなる高岡市中心市街地活性化協議会の活動を支援し、住みやすく、暮らしやすい高岡ならではのまちづくりの実現に努めます。

^{*1} Town Management Organization の略で、旧「中心市街地における市街地の整備改善及び商業の活性化の一体的推進に関する法律」に定められた中心市街地における商業まちづくりをマネジメント（運営・管理）する機関。

5 みんなで考え みんなでつくる みんなのまち

(1) みんなでつくるまち

一人ひとりの人権と主体性を尊重した平和な地域社会を形成するとともに、少子高齢化・情報化など急激に変化する社会の中で、市民に開かれた市政を進めながら、様々な分野で市民と行政が協力・協働してまちづくりを推進します。

平和な地域社会の形成

すべての市民の人権が尊重される地域社会の形成に努めるとともに、国際社会の一員として平和なまちづくりを推進します。

男女平等・共同参画社会の実現

男女がお互いを尊重し支え合うことによって、一人ひとりが持つ個性と能力を十分に発揮し、自らの意思と責任において多様な活動を選択することができるまちづくりに努めます。

協働のまちづくり

市民と行政が互いの役割分担を理解し、良好なパートナーシップを持ちながら、様々な地域の課題やまちづくりに取り組むことができる環境づくりに努めます。

市民に開かれた市政の推進

市民が主体的かつ積極的に市政に参加できるよう、わかりやすい行政情報の提供、市民の声を活かす仕組みづくりに努めます。

高度情報化の推進

急速に進展する情報通信技術の利便性を最大限活用し、市民生活の質的向上を図るため、情報関連企業の立地や市民の立場に立ったユビキタスネット社会の形成に努めます。

(2) 健全で質の高い行財政システムの構築

行財政改革を推進し、効率的な行政と市民サービスの向上に努めるとともに、地方分権の進展に伴い多様化・広域化する行政需要に対応できるまちづくりを推進します。

簡素で効率的な行財政の推進

新しい時代に対応した簡素・効率的で、市民サービスの維持向上が図られる行政運営、健全な財政運営、開かれた行政を民間の経営的な視点を取り入れながら推進します。

活力と魅力あふれる広域行政の積極的推進

地方分権のさらなる進展の中、広域的な行政対応が求められる課題に対し、近隣自治体との連携のもと、効率的・効果的に対応し、活力と魅力あふれる広域圏をつくり、さらなる合併を目指します。

さらに、高速交通網の整備進展を見据え、県域を越えた自治体とも連携し、魅力ある産業の振興や観光施策を一体的に推進し、豊かな広域社会の形成を目指します。